

22 地域人々の願いと暮らしの民俗学

渡良瀬遊水地に近い小山市生井地区には、昔からの人々の信仰が今も大切に受け継がれています。



日の出まつり〔2020年2月4日撮影〕

白鳥にある八幡宮では、例大祭として、毎年旧暦の1月11日の早朝の日の出とともに(現在は午前9時頃に時間が繰り下がっています)行列が神社に向かい神事が行われます。

社殿内での神事後、恒例の「鬼面射弓」(まず拝殿の入口、次に鳥居に吊り下げられた鬼の面に向かって、篠竹で作った矢をウツギの木を束ねて作った弓で射る)が行われます。

祭りの内容は、以前と比べかなり簡素化されましたが、頭屋制とよばれる古くからの祭りの形態を残していることから、1965(昭和40)年に「白鳥八幡宮古式祭礼」として、小山市の無形民俗文化財の指定を受けています。



東生井薬師堂の花まつり〔2022年4月7日撮影〕

花祭りは、お釈迦様の誕生をお祝いし、所願成就を祈る仏教行事です。

日本各地の寺院ではお釈迦様の誕生日として伝えられる4月8日に行うことが多いようですが、下生井にある薬師堂(東生井薬師堂)では毎年4月7日に行われています。

この日は、お堂に提灯や飾り付けが施され、村人たちがお釈迦様の誕生を祝うとともに、お堂の周りには「豊年万作」、「村内安全」、「天下泰平」等の所願をお祈りする看板が立てられます。



集落の境目に立つ雷よけのお札〔2018年5月6日撮影〕

生井地区の村々では、古くから雷電講(群馬県邑楽郡板倉町の雷電神社を信仰する講で板倉講ともよばれる)が信仰されてきました。板倉雷電神社は関東地方にある雷電神社の総本宮とされ、雷除けの神様、農家の作神様として知られています。4月に入り田植えの時期になると、自治会単位で代参が行われ、代参では各講員分のお札と村境に立てる辻札をいただいて来ます。村によって辻札の本数が異なりますが、立てる場所は辻固めの場所とほぼ同じ場所です。この辻札には、豊作祈願、雨乞い、雷よけ、ひょうや台風などの被害から農作物を守るなど、人々の願いが込められています。近年は、村境に雷よけの辻札を立てる自治会も減少傾向にあります。



松原大橋西側に立つ東生井の辻竹〔2022年8月7日撮影〕

下生井地区の村々では、7月の最終または8月最初の日曜日に「辻固め」が行われます。

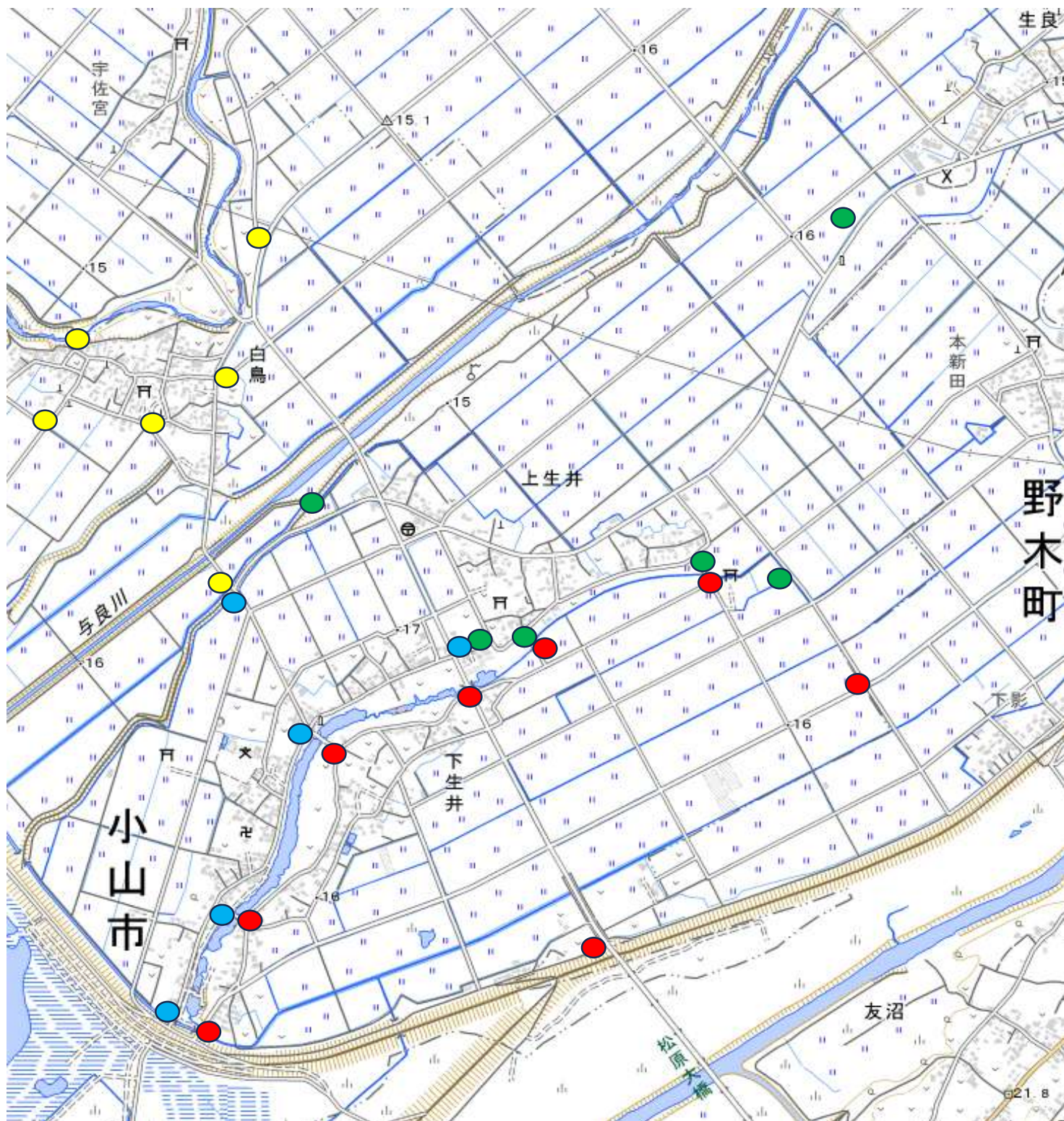
上生井では、上部を切断し、葉付き枝を数本残した中太の青竹2本に、太いわらを約1mの楕円形に一重の輪を作り幣束2本付けたものを6箇所の村境に立てます。

東生井では 上部を切断し、葉付き枝を5、6本残した細い青竹2本に、太いわらを約2mの楕円形に一重の輪を作り、幣束2本と生井八幡宮のお札を付けたものを8箇所の村境に立てます。

西生井では、上部を切断し、葉付き枝を2、3本残した中太の青竹3本に 太いわらを約60cmの楕円形に二重の輪を作り、幣束2本と津島神社のお札を付けたものを村境の5箇所に立てます。

なお、白鳥でも平成の時代まで行われていました。(葉を付けた篠竹2本の間に太いわらを約2mほど張り幣束を付けたものを6箇所の村境に)

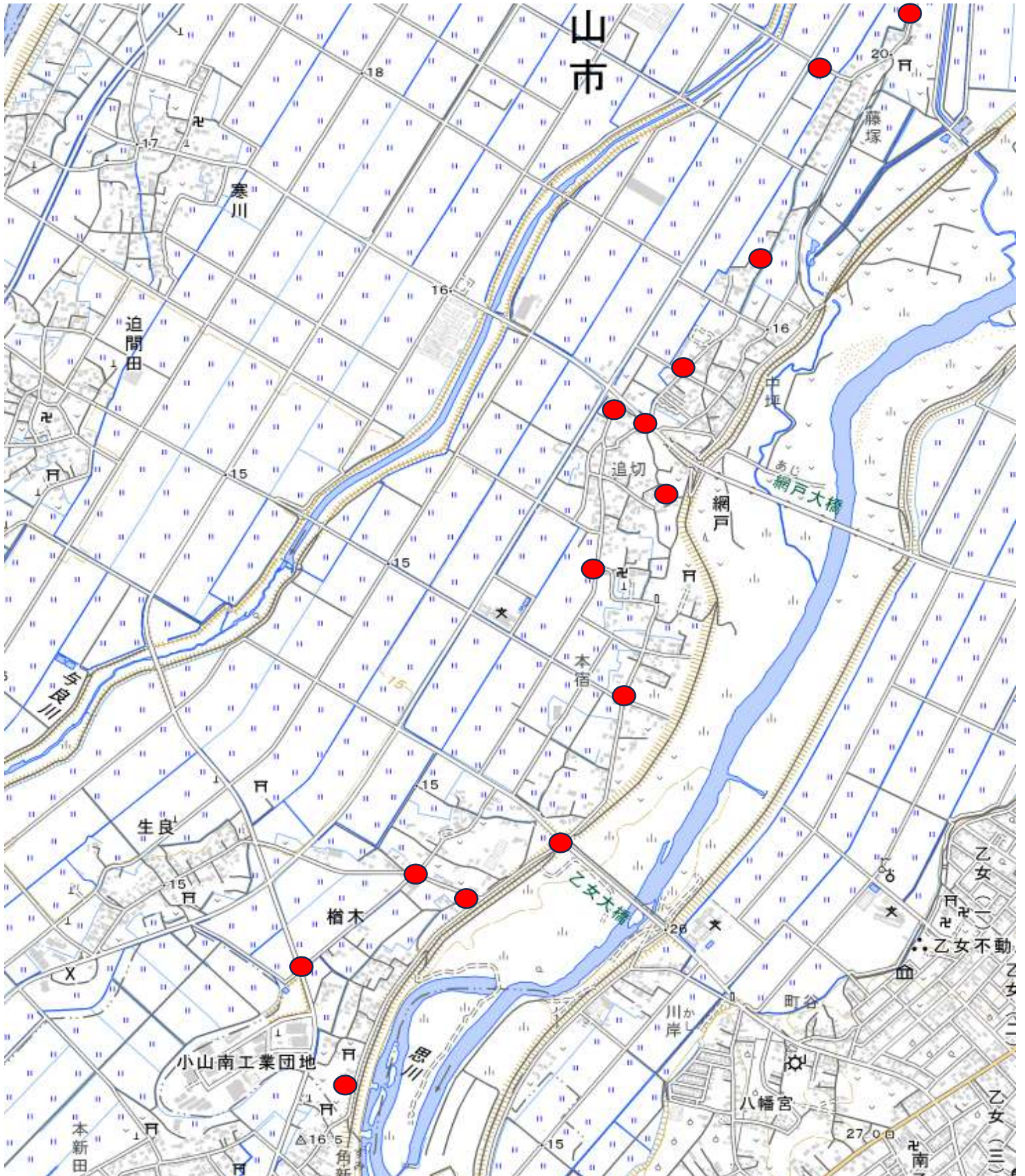
下生井地区「辻固め」地図



国土地理院地形図引用

位置	村名	箇所数	備考
●	上生井	6 箇所	
●	東生井	8 箇所	
●	西生井	5 箇所	
●	白 鳥	6 箇所	※平成まで

網戸地区「辻固め」地図



国土地理院地形図引用